カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

長崎の教会の世界遺産登録を受けて

大司教 ヨセフ 高見 三明

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録決定を受けて、次のことを教区の皆さんで共有したいと思います。

一、祈りの家と文化財

世界遺産登録は、教区が最初に申し出たことではありません。2001年市民活動に始まり、2006年県が教区の了承を得た上で政府に、政府がユネスコに登録申請をした結果、今回承認されたわけです。今後も県や関係自治体と意思疎通をはかり、種々の問題を解決していく必要があります。教会は文化財として世界遺産ですが、本来祈りの家です。しかし文化財は人間の精神活動が生み出したものですので、信仰の表現でもある教会との間には共通点があります。また保全には万人の協力が必要です。

二、信仰の歴史の証し

教会の世界遺産登録は、その背後にある信仰の歴史、すなわちキリスト教の伝来と繁栄、禁教と潜伏、そして復活に至るまで先祖が生き抜いた信仰の歩みに価値があると世界の人々に認められたことを意味します。そこで、まず自分のため、またほかの人に説明するためにこの信仰の歴史を知る必要があります。キリスト教はなぜ日本人に受け入れられ、しかしなぜ禁じられたのか。全国で多数が殉教し、特に長崎では潜伏して、つまり秘密の組織の中で祈り、洗礼と教えを受け、最後には檀家を装ってまで信仰を内に秘めて守り伝えました。1873年の高札撤去以後各地に建てられた教会がその歴史を証ししているのです。そしてそのすべてに神の恵みの働きがあります。

三、福音化へ

日本初のキリスト教関連の世界遺産ですから、キリスト教が認知される機会になり得ます。少なくとも多くの人が教会に関心を持ち始めています。そもそもキリスト教はどんな宗教ですか、十字架は何を意味しているのですか、などの質問が寄せられています。わたしたちは自分の信仰の内容や日本の教会の歴史をどれだけ知っているのか、何よりも自分が信者らしく愛を生きているかどうかを問われます。教会の世界遺産登録を契機に、いよいよ自分自身と周囲の世界の福音化に教区をあげて、できるところから積極的に取り組んでまいりましょう。

焼き場に立つ少年のカード

2017年末に教皇フランシスコが頒布したカード「焼き場に立つ少年」（撮影者ジョー・オダネル氏）について、カトリック中央協議会はこのほど各関係機関の許可をいただき、日本語のカードを作成しました。教区でも配布されます。平和を願い、祈りましょう。

トマス・アクィナス 前田万葉大司教 6月28日 枢機卿に親任

聖霊降臨の日にあたる5月20日に発表されていた通り、教皇フランシスコは6月28日、バチカンでの枢機卿会議において14人の新しい枢機卿を親任した。これにより、日本から選ばれたトマス・アクィナス前田万葉大司教（大阪教区）が、日本人で6人目の枢機卿となった。2009年に白柳誠一枢機卿が亡くなってから日本は枢機卿不在となっていたが、今回9年ぶりに前田新枢機卿を迎えた。

親任式は6月28日午後、聖ペトロ大聖堂で行われ、その中で前田新枢機卿は教皇から枢機卿位のしるしである緋色のベレッタ（帽子）を受け、指輪、任命書を手渡された（写真）。

式に参列した同じ仲知小教区出身の眞浦健吾師（青方教会）は、「仲知から枢機卿様が輩出されたことを誇りに思います。神様と信仰の恵みに感謝をささげながら感動のうちに式にあずかりました」と語っていた。

略歴

1949年3月3日、長崎県南松浦郡新上五島町仲知に生まれる。75年3月19日司祭叙階。長崎教区司祭として在任中は75年福江教会で助任を、76年浜脇、80年宝亀、88年俵町、98年田平、2001年平戸の各教会で主任を務めた。91年～94年には、本紙『カトリック教報』の第6代編集長。2006年からカトリック中央協議会事務局長。2011年6月13日広島教区司教に任命、9月23日司教叙階。14年8月20日大阪教区大司教に任命、9月23日着座。18年5月20日枢機卿に任命、6月28日親任。

司教の任命・引退

さいたま・大阪　教皇フランシスコは6月2日、さいたま教区の新司教と大阪大司教区の2人の補佐司教を任命された。さいたま教区の新しい司教は、サレジオ修道会のマリオ山野内倫昭（みちあき）師（62）。また教皇は、前田万葉大司教が枢機卿に任命された大阪教区のために、2人の補佐司教を任命。クラレチアン宣教会のホセ・マリア・アベイヤ師（68）とオプス・デイのメンバー、パウロ酒井俊弘師（58）。

さいたま教区の司教叙階式は9月24日(月)午前11時、浦和明の星女子中学・高等学校ジュビリーホールで行われる。大阪教区の司教叙階式は7月16日(月)午前11時から大阪教区カテドラル聖マリア大聖堂で、前田万葉大司教の枢機卿親任報告もあわせて行われた。

鹿児島　教皇は、鹿児島教区の郡山健次郎司教の引退願いを受理し、同教区司祭で日本カトリック神学院院長のフランシスコ・ザビエル中野裕明師（67）を新司教として任命したと7月7日に発表。叙階式は10月8日(月)13時、鹿児島県文化センターで行われる。

東京　教皇は6月23日、東京教区の幸田和生補佐司教が提出していた、補佐司教の職務からの退任願いを受理した。

登録発表と記念講演会

6月24日～7月4日にバーレーンで開かれた第42回世界遺産委員会で「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に正式に登録。日本時間6月30日（土）17時50分頃に決定、関係自治体を中心に各地で喜びの声が聞かれた。長崎教区では登録をうけて7月15日（日）19時から大浦天主堂で記念の特別講演会を行った。講演会は10月にも3回開催する予定。

旅の始まり150周年記念行事

7月22日(日)浦上教会で「旅の始まり150周年」を記念するシンポジウムとロザリオの祈り、ミサが行われた。他教区の人々も含めた約800人が集い、共に祈りをささげた（詳細は次号に掲載予定）。

連載企画（全5回）

浦上村総流配〈旅〉の150周年 ―第4回

純心聖母会　片岡千鶴子

〈旅〉の記憶の継承
四、牢面桶と
土佐に流された信徒たち

(一) 牢面桶

明治2年末、土佐（高知）に流されたのは浦上村本原郷字一本木（今の三原町）のキリシタン116名です。左の写真の面桶は土佐の牢から吉造の妻コノが持ち帰ったものです。面桶とは一人分ずつの食物を入れる曲物の器を言います。食事は日に2回、面桶に注いだ米粒の形の見えない薄めた粥に一摘みの塩と白湯が配られました。飢えは〈旅〉の大きな苦しみの一つでした。一本木では他にも面桶を大切にしている家がありましたが原爆の炎で灰になり、コノが持ち帰った面桶がただ一つ残りました。コノは面桶に砂糖を入れていたそうです。永井隆は牢面桶と土佐の物語を聞き「土佐のくに江の口牢にみ祖たち飯もりし面桶の塗はげにけり」と詠みました。150年の星霜に牢面桶は古びましたが、守り通した信仰の輝きを今に伝えています。

牢面桶（長崎純心大学博物館蔵）

(二) 伝道士 片岡市右衛門

牢獄の苦しみは飢えに加えて狭隘（きょうあい）な部屋に押し込められたことでした。立ったり座ったり交代で体を休めました。その苦難の中で皆を励まし支えたのが伝道士の片岡市右衛門です。「ここは天国の昇り口ぞ、心の準備をしよう」と、寺の鐘で時刻を計って祈りと黙想の時間割りを定めましたので土佐の牢獄は祈りの家になりました。日に日に痩せて体力が衰えたところに熱病が流行り、市右衛門の両親をはじめ39名が殉教しました。死者のための祈りが続く日々だったといいます。

(三) 聖教の種を蒔く

明治4年、牢獄から陽貴山の大きな寺院に移され、家族ごとに住み、取り扱いが緩やかになりました。俄（にわ）かの変化は政府の流配キリシタンの実地調査が行われることになったためでした。一方、改心の実績を上げようと信徒を次々とご用に呼び出しますが、信徒たちの信仰は鉄石のごとくで微動だにしません。ある日、声を荒げて改心を迫る役人に市右衛門は「私たちは必ず土佐に聖教の種を蒔いて帰ります」と宣言し、機会を逃さず布教に努めました。明治期カトリック教会に『旧新約史略』を訳して貢献した旧土佐藩士小島準治は市右衛門の導きで受洗しました。また、市右衛門と共に土佐の牢で過ごした次男敬三郎と親代わりとなっていた本田藤五郎は司祭の道に進みました。片岡余吉神父と本田保神父です。明治6年、信徒たちは全員信仰を守り通して故郷に帰りました。

〈旅〉から帰った市右衛門は伝道士として生涯働き続けました。

片岡市右衛門翁
（『旅の話』1938年刊から）

ほしかげ

昨年夏、車を運転していると聞き覚えのある声がラジオから流れてきた。沖縄で平和学習が行われており、その参加者の声だった。インタビューを受けている若い男性は、はきはきした声で平和への決意を新たにしていた▲後日、心当たりの人にこのことを尋ねてみると、やはり彼だった。マイクが向けられたので、対応したのだそうだ。「いいコメントだったよ」と伝えた▲教区の平和推進委員会は毎年夏に、中学生向けに広島のピース・スタディーを、高校生向けに沖縄の平和学習を実施している。とても有意義な催しだが、参加者はそれほど多くないと聞く。宣伝が足りないのかもしれないが、残念だ▲特に沖縄は、かつての戦争の悲劇だけではなく、今も米軍基地問題に翻弄され続けている。しばしば報道されるので、知らない人はいないだろう。私たちはそれをどのように受けとめているだろうか▲引退された那覇教区の前教区長、押川司教様がこれについて言及したことがある。「この問題は日本の安全保障の問題なのに、本土の人は自分たちの問題ではなく、沖縄の問題として、沖縄の声に耳を傾けてくれない。」▲長崎では過去の戦争と、その悲惨さを学ぶことができる。そして長崎人としてそれを発信することはとても重要なことだ。しかし、さらに一歩踏み出して、今の時代の平和の実態を学ぶことも大切ではないだろうか。（窄）

Synod 2018　Youth, faith and vocational discernment　「若者」をテーマにしたシノドスに向けて

教会はいつも新しくなる ⑦

青少年の同伴者として

平戸ザビエル記念教会　山村 憲一

高校時代の出来事

長崎工業高校に入学し、甲子園をめざして野球部に入部しました。入学祝いのほとんどをつぎ込んで買った硬式用のグローブ、練習着、スパイクを身に着けて練習に参加しました。参加して分かったことがありました。土曜日の夜も、日曜日の朝も練習があって、主日のミサにあずかれないことでした。それが理由で、退部しました。入部してまだ三日目、まさに三日坊主でした。振り返って考えると、「主日のミサにあずかれない」という理由で、夢だった甲子園をよく諦めたなと思います。でも、その時にはそう考えたのです。

この出来事を始めとして、高校時代には不思議だなと思うことがたくさん起こりました。電話がかかってきました。同級生からでした。「次の日曜日、教会でバザーがあって高校生会で皿洗いの奉仕をするけど、手伝ってくれないか？」という内容でした。次の日曜日、皿洗いをしていたら、先輩から「次の日曜日、浦上教会の信徒会館で高校生の集まりがあるから参加してくれ」と言われました。言われた通りに参加してみると、選挙が始まりました。気づいたら「山村」の下に一番多く「正」の字があって、皆から「おめでとう、地区高校生会の会長に選ばれたぞ」と祝福されていました。なぜか断ることもせずに活動を始めました。毎月一つの行事があって、そのために話し合い、実行し、反省することはとても楽しかったし、何よりもたくさんの仲間たちと一緒にいることが喜びでした。

高校生会の指導司祭にはほんとうにお世話になりました。高校生の私たちと共にいてくださり、私たちにできない部分をしっかりと支えていただきました。ある話し合いがあった日、指導司祭が自宅近くまで送ってくださいました。信号待ちの時、一緒に乗っていた電話をくれた同級生と私にバックミラー越しに言われました。「司祭にならないか、教区司祭にならないか」と。その言葉に、「なりたいです、なります」と答えました。私たちは高校3年の9月から小神学校に編入し、司祭職への道を歩み始めました。

人生の重大な決断に、神様が働いてくださった

自分の生き方の決断をするのに必要な出来事が、私にとって高校時代にあったのだと考えています。確かに、高校に入学する時には自分の将来を漠然としか考えていませんでした。大学には行かない、就職して、結婚して、家庭を築く、そんなことを思っていただけでした。しかし、高校時代に起こった数々の出来事を通して、自分の人生について真面目に考え、できるのならこの生き方をと司祭になることを決断したのだと思っています。高校生だったその時には気づけなかったのですが、振り返って考えると、あの時、確かに神様が働いてくださったのだと確信するようになりました。「わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ。」（ヨハネ5章17節）というイエス様のみことばを考えます。神様はいつも働いてくださっている。だから、私たちの人生において、必ず神様の働きだと実感できることが起こるのだと思うのです。そしてその神様の働きは、一つの特徴があるのだと思います。私の近くにいて、かかわってくれる誰かを通して行われるのです。

司祭になって直面したこと

新司祭となって直面したことは、人生の重大な決断をする時にカトリック高校生の多くが教会から離れていて、神さまの働きの中でその決断が出来ていないのではないかということでした。堅信の秘跡の準備で教会にあった自分の居場所、不思議なことに高校生になるとなくなってしまう現実があるように思います。学業に、クラブ活動に忙しいのだろうとミサに参加しなくても仕方ないと、それまでかかわってくれていた周りの人たちもどこかで諦めてしまう。そのような高校生たちが、やがてミサにも参加しなくなって、教会とのかかわりをなくしてしまう。そんな状況の中で、これから自分の人生をどう生きていくのかという重大な決断をする時、「自分は神様を信じているからこの生き方を選ぼう」、「自分はカトリック信者だからこう生きていこう」という考え方を持つことは至極困難なことです。そのことがとても残念でなりませんでした。

信仰者としての決断のために

今なお働いておられる神様を意識して、その中で人生の重大な決断をしてほしいという思いから始めたことがありました。佐世保地区の高校生担当司祭として、高校生新聞を発行することでした。巻頭言と要理の解説、行事告知に聖書クイズという拙い新聞でしたが、その情報にふれることで神様を意識してくれるチャンスになればと、月に一度の発行でした。各教会から頂いた名簿の住所に一方的に郵送するのですから、それがどれくらい高校生に響いたかは全くもって不確かな方法でした。でも、そうせざるを得ないと思いました。

そこから始まっているのだと思います。高校生、青年にかかわろうとする時、私を動かしているのはいつもこの思いです。かつて高校生だった私に神様の働きを感じるきっかけを与えてくれた人たちがいてくれたから、司祭として生かされている今の自分がいるのだと考えています。青少年がこの先の人生をどう生きるべきか、自分に与えられた召命について真剣に考える決断の時に、私を通して神様が働いてくださるのであれば喜んでその役に立ちたいのです。だから青少年と共に歩みたいのです。その同伴者として寄り添っていたいのです。司祭職の奉仕においてずっと大切にしたい思いなのです。

司祭養成のために福岡コレジオで過ごした4年間の体験は、私に青少年の同伴者として歩むことの大切さを再確認させてくれるものでした。司祭召命に応えるかどうかは、最終的には神学生自身が決断するしかありません。司祭召命の見極めを本人が納得し、後悔することのない形で行えるようにするには、共に祈り、共に食べ、共に語り合い、共に体を動かし、一緒に生活しながら、忍耐強く待つしかないのです。まさに同伴者として歩む中で、その神学生の人生の重大な決断の時を待つしかないのです。

青少年委員会のメンバーとして

長崎教区の高校生、青年、いわゆる青少年の教会離れを認めざるを得ない現実があります。その現状を全く放置しているわけではなく、青少年委員会のメンバーたちが頑張っています。その頑張りを通して、神様の働きを感じそれに応えようと頑張っている青年たちがいます。この動きの輪が大きく広がっていくことを心から祈っています。

5年ぶりに青少年委員会のメンバーに復帰したので、会議に参加しました。各地区の活動報告を聞いて感じたことがあります。高校生に対しての司牧の欠如です。自分の小教区でも何もなされていない現状を考えていたら、思わず発言してしまいました。「高校生に対してほとんど何もなされていないのは残念でなりません。教会に来ないのだから仕方がないというのが理由だと思いますが、来ないのならこちらから情報発信だけでもすべきだと思います。フェイスブックとかを利用すればできないことではないと思います」と。発言の責任をとらされたのか、高校生向け情報発信フェイスブックの担当者になりました。少し後悔していますが、こうなったら「いいね！」めざして頑張ります。

人事異動・任命

（　）内は前任地

▼教区（6月3日付）
岩本　繁幸師　深堀主任代行
前田　達也師　療養中（深堀主任）

▼コンベンツアル
聖フランシスコ修道会（7月1日付）
水浦　征男師　東長崎協力司祭
（聖母の騎士修道院）

和気あいあい、時に真剣に

第2回高見杯に青年たち集う

6月17日（日）、昨年から始まった第2回『高見杯』（ソフトバレーボール大会）。高見三明大司教様をはじめ、多くの神父様方のいろいろな形でのご協力のおかげで、無事開催することができました。

今年は、全地区からの参加とはいきませんでしたが、6地区から約40名の参加がありました。年齢や教会も違い、初対面の人が多い中、最初はよそよそしくも、同じチームの神父様方を中心に次第に一つにまとまり、和気あいあいと、時に真剣に交流し、実り多い時間を過ごすことができました。

青年や若い既婚者を含むわたしたち若者は、進学や就職で地元を離れる者も多く、継続したつながりを持つことが難しい状況にあります。そういった若者を、違う場所でも引き寄せてくださる神父様方。大司教様からのことばにもありましたが、こうした神父様方の力を借りながら、大司教様や神父様方、若者同士の交流の場であるこの『高見杯』を、これからも続けていきたいと思います。

▲当日は「父の日」。青年たちから大司教様へささやかな感謝の贈り物も。

大会実行委員長　深堀まなみ（浦上教会所属）

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

聖マリア学院小学校
平成31年度　児童募集！
Love to Learn and Learn to love
第2回オープンスクール
9月22日（土）
「公開授業」
「学校説明会」
「ランチタイム」
第39回音楽祭
11月17日（土）
入学試験
11月23日（金）
安心・安全
放課後活動
・ソフトボール部
・ミニバスケット部
・そろばん教室
・習字教室
学童クラブ
授業日の放課後、18時まで無料で実施しています！
一人ひとりの"いのちの輝き"を大切に
聖マリア学院
〒852-8023 長崎市若草町6番5号　TEL:095-844-1549　詳しくは、HPをチェック！

主の平安
株式会社 五島式典社（斎場）五島中央会館 奈留会館
代表取締役　ヨゼフ　浦　昭
24時間営業
五島市上大津町1385番地1　TEL (0959) 74－5551
FAX (0959) 74－5552
五島市奈留町浦1899－1　TEL (0959) 64－3101
FAX (0959) 64－3102

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー（株）
代表取締役　ミカエル　溝口　晃
〒858－0926　佐世保市大潟町586
TEL(0956)47－4380

2017年度決算に関する報告　カトリック長崎大司教区

単位：円

〔収入の部〕

科　目	決算額
1．経常収入の部	433,582,485
教区費	117,456,964
信　徒	105,733,724
司　祭	8,423,240
修道会	3,300,000
特定献金	31,169,071
神学生養成援助費（封筒）	11,446,540
世界広報の日献金	2,305,513
聖ペトロ使徒座への献金	6,395,515
世界難民移住移動者の日献金	2,369,745
世界宣教の日献金	2,219,088
宣教地召命促進の日献金	2,419,290
世界こども助け合いの日献金	4,013,380
特別献金	21,447,145
寄付金	10,194,069
献金収入（本部関係）	11,253,076
諸委員会活動費	4,362,575
(1) 信仰養成部	**1,023,060**
信仰教育委員会	65,560
生涯養成委員会	799,500
青少年委員会	158,000
信仰養成部	0
(2) 福音化推進部	**382,307**
人権委員会	0
福祉委員会	0
平和推進委員会	382,307
エキュメニズム・諸宗教委員会	0
福音化推進部	0
(3) 教会奉仕者等養成部	**0**
教会奉仕者養成委員会	0
召命委員会	0
(4) 典礼委員会	**125,800**
(5) 家庭委員会	**1,495,208**
(6) 広報委員会	**1,234,000**
(7) 教区本部事務局	**102,200**
(8) 教会歴史文化遺産評議会	**0**
その他の収入	259,146,730
受取利息	211,884
非課税事業収入	6,211,524
小教区拠出金	223,230,403
雑収入	26,957,919
司祭年金繰入金収入	2,535,000
2．財務収入の部	70,000,000
その他の財務収入	70,000,000
国宝保存財務資金	70,000,000
3．前年度繰越金	92,947,988
収入の部合計	596,530,473

〔支出の部〕

科　目	決算額
1．経常支出の部	515,904,758
宗教活動費	5,356,189
祭儀費	2,192,334
助成金（小教区）	1,049,220
教区評議会	2,114,635
諸委員会活動費	19,951,359
(1) 信仰養成部	**3,048,402**
信仰教育委員会	202,964
生涯養成委員会	1,633,388
青少年委員会	1,013,216
信仰養成部	198,834
(2) 福音化推進部	**3,405,483**
人権委員会	1,342,183
福祉委員会	78,340
平和推進委員会	1,684,045
エキュメニズム・諸宗教委員会	257,915
福音化推進部	43,000
(3) 教会奉仕者等養成部	**907,801**
教会奉仕者養成委員会	117,800
召命委員会	790,001
(4) 典礼委員会	**456,684**
(5) 家庭委員会	**2,111,078**
(6) 広報委員会	**5,843,645**
(7) 教区本部事務局	**1,013,070**
(8) 教会歴史文化遺産評議会	**2,070,960**
(9) 子どもと女性の人権相談室	**1,094,236**
負担金	17,930,534
中央協議会送金	10,398,262
使徒座送金	6,932,272
心のともしび	600,000
神学生養成費	54,875,783
日本カトリック神学院	28,506,112
長崎カトリック神学院	15,000,000
福岡コレジオ	10,304,864
大神学生諸経費	1,064,807
司祭生涯養成費	9,105,256
黙想研修会	6,539,390
海外留学費	2,565,866
不動産管理費	1,350,701
管理費	732,544
租税公課	618,157
人件費	322,230,602
聖職者（本部関係）	24,036,000
聖職者（小教区）	171,589,383
引退司祭	20,474,000
職員（本部関係）	57,241,729
職員（小教区）	48,889,490
福利厚生費	41,932,577
法定福利費（本部）	34,532,938
法定福利費（小教区）	2,751,530
福利厚生費	785,086
福利厚生費（医療費）	2,415,523
医療共済制度（カリス）	1,447,500
維持管理費	18,882,599
大司教館	12,070,264
カトリックセンター（管理部門）	6,812,335
事務費	15,156,093
教区管理費	13,895,486
法人事務所	260,607
長崎教会管区裁判所	1,000,000

科　目	決算額
その他の支出	7,841,530
退職引当金繰入支出	2,445,000
非課税事業支出	5,396,530
雑費	1,291,535
2．財務支出の部	12,679,059
積立金支出	3,000,000
大司教活動資金	3,000,000
その他の支出	9,679,059
預り金等収支差額	9,679,059
3．次年度繰越金	67,946,656
支出の部合計	596,530,473

カトリックセンター事業部門

〔収入の部〕

科　目	決算額
宿泊収入	38,733,127
会議室収入	1,315,750
レストラン収入	7,513,580
売店収入	339,069
営業雑収入	621,021
受取利息収入	128
雑収入	26,685
退職引当預金取崩収入	447,491
前年度繰越金	14,630,378
収入の部合計	63,627,229

〔支出の部〕

科　目	決算額
食材仕入支出	4,110,824
売店仕入支出	454,170
消耗品費	1,360,337
通信費	242,273
旅費交通費	24,700
水道光熱費	4,924,377
接待交際費	27,164
諸会費	109,000
車輌費	196,141
修繕費	247,644
保険料	463,670
保健衛生費	1,971,095
公租公課	4,506,494
リース料	304,473
広告宣伝費	39,720
支払手数料	1,817,033
雑費	1,688,551
寄付金	360,000
研修費	220,470
給与手当	20,832,251
福利厚生費	294,558
法定福利費	1,895,924
備品取得支出	636,300
退職金	532,497
退職引当金預金支出	590,000
預り金等収支差額	141,554
次年度繰越金	15,636,009
支出の部合計	63,627,229

2018年 四旬節愛の献金

総額 6，287，174円（6/28現在）

上記献金の他、直接カリタスジャパンへご送金いただいている分もあります。

皆様のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

カリタスジャパン長崎支部

2017年度決算に関する報告　72小教区決算集計表

単位：円

〔収入の部〕

科　目	決算額
1．経常収入の部	1,104,780,284
献金収入	797,940,341
教会維持費	394,128,779
ミサ献金	112,204,677
ミサ奉納金	185,719,760
祭儀献金	58,648,114
その他の献金	47,239,011
寄付金収入	69,170,320
一般寄付金	46,094,955
指定寄付金	1,959,084
司祭寄付金	8,248,000
修道会寄付金	1,825,000
その他の寄付金	11,043,281
その他の収入	82,309,802
教区補助金収入	4,000,000
受取利息収入	111,323
墓地納骨堂管理費収入	22,332,221
行事収入	7,111,701
非課税事業収入	3,914,848
雑収入	44,839,709
預り金収入	155,359,821
教区費	109,582,253
神学生養成援助費（封筒）	10,325,380
世界こども助け合いの日献金	2,302,962
世界広報の日献金	2,136,600
聖ペトロ使徒座への献金	2,190,187
世界難民移住移動者の日献金	2,267,291
世界宣教の日献金	2,153,704
宣教地召命促進の日献金	2,209,570
特別献金	523,971
預り金	2,234,086
一菜募金	6,811,896
クリスマス募金	4,337,330
カリタスジャパン募金	5,900,242
その他の募金	2,384,349
2．財務収入の部	324,253,362
内部借入金収入	87,939,969
外部借入金収入	52,000,000
特別目的預金取崩収入	57,472,856
境内建物建設増改築積立金収入	66,518,706
修理費積立金収入	36,970,316

科　目	決算額
雑収入	14,108,893
教会建設積立繰越金受入	62,405
小教区互助基金	5,000,000
その他の収入	4,180,217
3．前年度繰越金	688,787,916
収入の部合計	2,117,821,562

〔支出の部〕

科　目	決算額
1．経常支出の部	980,979,570
小計Ⅰ	813,925,158
祭儀費	42,034,241
教化費	32,246,736
教育養成費	14,974,272
図書費	6,283,918
出版刊行費	11,196,848
行事費	39,549,543
負担金	28,933,942
維持管理費	40,325,666
備品修繕費	26,311,110
保守管理費	18,669,830
墓地管理費	8,651,439
保険料	28,206,041
給与手当	222,727,535
雑給与	29,175,284
退職金	832,400
福利厚生費	15,414,789
法定福利費	3,592,162
会議費	3,871,808
消耗品費	22,473,348
器具備品費	6,552,228
リース料	13,453,642
通信費	12,756,314
旅費交通費	12,003,307
自動車諸費	19,454,558
水道光熱費	80,977,939
接待交際費	16,341,010
公租公課	1,096,025
支払利息	92,703
補助金支出	18,698,986

科　目	決算額
支払手数料	1,931,144
非課税事業支出	2,717,210
雑費	27,741,199
修道院献金	2,341,001
寄付金	2,296,980
小計Ⅱ（預り金支出）	167,054,412
教区費	108,627,353
神学生養成援助費（封筒）	10,436,180
世界こども助け合いの日献金	2,274,306
世界広報の日献金	2,191,954
聖ペトロ使徒座への献金	2,195,344
世界難民移住移動者の日献金	2,258,071
世界宣教の日献金	2,531,608
宣教地召命促進の日献金	2,220,342
特別献金	7,124,835
預り金	4,228,344
一菜募金	7,527,633
クリスマス募金	4,427,433
カリタスジャパン募金	6,024,293
その他の募金	4,986,716
2．財務支出の部	451,625,565
内部借入金返済支出	33,669,969
外部借入金返済支出	4,000,000
土地取得支出	700,000
建物取得支出	177,357,522
構築物購入支出	21,158,898
器具備品購入支出	8,220,608
特別目的預金積立支出	145,264,899
境内建物建設増改築基金	7,310,000
小教区互助基金	5,000,000
その他の支出	48,943,669
3．次年度繰越金	685,216,427
支出の部合計	2,117,821,562

	2016年度	2017年度
世帯数	18,091	17,883
①維持費／世帯数／月	1,863	1,837
②教区費／世帯数／月	521	511
③教区費／維持費（%）	27.9	27.8
④ミサ奉納金／世帯数／月	858	865
⑤ミサ献金／世帯数／月	514	523

会計報告――17年度決算書を受けて

カトリック長崎大司教区の収支決算書が6月19日（火）、教区顧問会で承認された。

収入の部では、教区費の減少傾向が続いている。過疎化・高齢化を考慮すると、将来を見据えた改善策を具体的に検討する必要がある。

さらに老朽化が激しくなってくる教会も多くなり、その修理などの負担は従来以上に重くなる。またカトリックセンターも間もなく築50年を迎える。教会をはじめとする諸資産の維持保全のため、大浦天主堂拝観料の値上げ分の一部を「教会保全基金」として蓄え、将来への備えとした。

支出の部では、予算額と決算額との差異が大きい諸活動部門があることが指摘された。これまで予算の設定は「昨年と同じ」とする場合が多く、大雑把であったと認めざるを得ない。

予算は作成段階から手間暇かけていただいているが、作成した予算と実績を定期的に比較して分析することが大切である。差異があればその差異が発生した要因が分析され、その要因を次の予算に活かすことが可能となる。

予算決算の検証を行うことでその結果を次に活かし、皆で福音宣教という大きな目標に向かってさらに前進していきたい。

教区会計　岩本繁幸

公開聖書講座

真に幸いな人とは

教区生涯養成委員会は6月24日（日）13時からカトリックセンターホールで、2018年度公開聖書講座を開催した。約140人以上の司祭・修道者・信徒が受講した。

今回はフランシスコ会の古里慶史郎神父様を講師に迎え、「マタイによる福音書を読む『あなたの敵を愛しなさい―山上の説教のこころ』」というテーマで話をしていただいた。古里神父様は、下へ下へとへりくだり、虐げられていた人たちと共にいたキリストの姿に倣い、わたしたちもその生き方へと召されていることを話され、その行きつくところは山上の説教の中でキリストが示した真の「幸いな人」の姿であると説明された。

解釈の説明に終始するのではなく、実体験を織り交ぜながら分かりやすい思いのこもった神父様の話しに、参加した人たちは感動しながら熱心に耳を傾けていた。

（生涯養成委員長　谷脇誠一郎）

講話する古里師

教区生涯養成委員会から

主催講座のご案内

教区生涯養成委員会主催の2018年度信仰養成講座・聖書講座は4月から開講しています。

7月までのプログラムはすでに終了しましたが、8月以降の日程は左記の通りです。受講申し込みは随時受け付けていますので、どうぞ積極的にご参加ください。

◆場　所　カトリックセンター2階講堂
◆受講料　聖書10,000円　信仰養成6,000円　＊聴講もできます（1回1,000円）
◆申込先　〒852-8113 長崎市上野町10-34　生涯養成委員会
Tel 095-841-7731　Fax 095-841-7732

信仰養成講座（土曜 14:00～15:30）

テーマ：信徒生活について

月日	講師	内容
8月25日	下原和希師	教会の組織
9月24日	古巣 馨師	公開講座 結婚と家庭生活
10月27日	中村倫明師	罪とかいしん
11月24日	松田聡史師	臨終とお葬式
12月15日	中濱敬司師	聖人崇敬と巡礼
1月26日	尾髙修一師	殉教者
2月23日	十時伸治師	聖週間の典礼

聖書講座（木曜 19:00～20:30）

テーマ：マタイによる福音書　テキスト：聖書

月日	講師	内容
9月6日	中濱敬司師	たとえ話
13日		
20日	野濱達也師	信仰
10月4日	谷脇誠一郎師	死と復活の予告
11日	大水 満師	終末について
18日	中野健一郎師	最後の晩餐
11月8日	山内啓輔師	受難
15日	川端志範師	復活

〝すべての人への感謝の日〟

土井ノ浦教会献堂100周年

6月24日（日）、土井ノ浦教会では献堂100周年を記念するミサと祝賀会が行われた。

高見三明大司教司式による記念のミサには、歴代主任司祭と出身の司祭、シスター方、それに上五島地区司祭団と招待者、多数の小教区の信徒が参列し、満員の堂内に喜びと感謝の祈りが響き渡った。

説教は第7代主任司祭の紙﨑新一師が務め、思い出を振り返りながら、「教会の移り変わってきた100年の歴史の中に立つことができたことを感謝したい。移り変わっていく時代の中でも変わることのない、これまで先祖が大切にしてきたものを、子どもたちへと受け継いでほしい」と話した。

また、式の中では新しい聖櫃が大司教によって祝別された（下の写真）。

祝賀会は、土井ノ浦教会の信徒によるスライドを使った教会の歴史の紹介から始まった。ゆかりの神父や懐かしい信徒の面々が映し出されると、会場は懐かしさに沸いた。続いて土井ノ浦教会主任の川端志範師から、「今日は教会に携わったすべての人への感謝の日」とあいさつがあり、高見大司教と歴代主任の岩崎晋吾師（諫早教会主任）からも祝辞が述べられた。余興では、子どもたちが教会の思い出をテーマとした劇を披露し、また土井ノ浦をテーマに地区司祭団が作詞作曲した歌、それからシスターたちの美しい聖歌が披露された。高見大司教の歌声も響き、会場は終始温かい雰囲気に満たされた。

川端師は、「主催者の一人として、記念式典を通して、これまで土井ノ浦教会のためにご尽力いただいたすべての方への感謝の気持ちを再確認し、またこれから信仰を受け継いでいく新たな歩みのための励ましをいただいたことを、この場を借りて感謝したい」と語った。

（撮影／松田典子）

教区司祭の黙想会

大司教館

5月15日（火）～18日（金）札幌教区の勝谷太治司教を招き、教区司祭黙想会が大司教館で行われた。

「愛されている実感」を全体の講話の中心に、「神に愛されている実感を持てるようになると、信仰生活は喜びに満ちてくる。喜びのうちに生きる信仰は、宣教を前に進める力となる」と、長い教会司牧の経験から励ましの言葉を語った。

札幌教区の現状分析では、高齢の司祭が多い中、長崎教区とは比較にならないほど広い範囲を引き受け司牧をしている。これについて、参加司祭たちは驚きを隠せない様子だった。また、無条件に赦す愛の神の姿は、人間が神に愛されていることを何よりも実感させる。神の赦し、憐みに人々の目を向けさせる必要にも気づかされた様子だった。

「力は弱さの中でこそ十分に発揮される」との聖パウロの言葉に信頼し、「あるべき自分」より「ありのままの自分」で神に使っていただこうとする説教師の姿が、参加者に強く焼き付いた。

黙想の家

5月22日（火）～25日（金）に、立山黙想の家を会場に、教区司祭黙想会が行われた。参加者は14人。講師は、コンベンツアル聖フランシスコ修道会司祭で本河内教会主任の山口雅稔（まさとし）師。

山口師は教皇文書や福音書を分かち合いながら、自身の体験も紹介し、司祭としての生き方を説いた。とりわけ、前任地で難民申請者の家族の支援に関わった体験談は黙想会参加者にとって興味深く、行政や地域とのつながりができたこと、心温かい人々に出会ったことなど、教会内の活動だけではできない貴重な体験を分かち合った。

初めて長崎に赴任した同師は、「長崎にはポテンシャル（潜在的な可能性）がある。長崎の人たちがみんなイエス様と出会えるように、福音宣教に頑張りたい」と意気込みを語った。

また、折に触れて聖母マリアと司祭職について語り、聖マキシミリアノ・マリア・コルベ神父の霊性の一端に触れる機会を提供した。

水がめを運ぶ人 ―川添猛の遺言―

古巣 馨

被爆者の過去帳干せりわが名いつ　岳石

いんぎんぶったことを嫌う人でした。「身に余るような出来事が降りかかった人間は、白紙のようになってしまう。そのおかげで、どうでもいいことと、命をかけて守らないといけないことの区別はつきやすくなった」と。飾り立てられた儀式には一瞥（いちべつ）を投げると、いつも口をつぐんでいました。それでも、毎年つゆの晴れ間に虫干しされる奉安箱の過去帳は、齢を重ねるごとに気になっていたのでしょう。「川添猛　平成29年11月17日死去　享年85」今年、その名は奉安箱に収められました。これは被爆の町のしきたりで、信仰者川添猛の本心は別の世界にありました。

昨年7月、殺気を漂わせながら一冊の古文書と格闘していました。『寶（ほう）蔵書』、故郷桐の隣集落深浦の古老に複写してもらった隠れキリシタンの儀式書です。末尾には「大正四年旧二月廿八日寫之」とあります。「ゼーズス様エ　御届ヲ申し上ケ奉ル　御安女様方ノ御力ヲ以テ社場ノ御帳面ヲ取消しパライゾの御帳面二御加エ下サレマスル様二謹ンデ御頼ミ上ヶ奉る　アンメン　ゼズゝ　泰フ存じ上ケ奉ル」頷きながら何度も口ずさんでみた「死に際しての祈り」です。過去帳よりも、パライゾの「命の書」（黙示録3・5）に記されることを願う人たち。「こがんとを生の声、生の祈りというとやろうね」と、大きく一つ息をつくとゆっくり天井を眺めていました。血の通った言葉と、ほのぬくい信仰を求め続けた人でした。

ああ暑し被爆壺の口ゆがむ　岳石

その壺は今大司教館のロビー左手に置かれています。原爆落下中心地付近で発見された高麗壺です。真上から数千度の熱線を浴びた壺の縁は、瞬時に変形し肩もくぼみ、溶けた表面は放射能の釉薬をかけられた状態です。三人の手を経て、壺は川添猛のもとにたどり着きました。なぜか、先に保管した人たちは短命だったといいます。以来、天に召される日までの40年近く傍らに置いてきました。「私の場合、ときどき口をゆがめて叫びはしたものの、長く生きさせてもらいました」ゆがんだ壺に向かい、口をゆがめて何を叫んだのでしょうか。「まだ届いていない、70年間叫んだのに。叫ぶ人も聞く人もどこか食い違っているのかもしれない。戦争というものは、死が賛美されるものです。私たちの信仰とはまるっきり正反対です。本当にまるっきり反対です。私たちの信仰は生きている神によって生かされること、信仰は生きることが中心です」被爆70年目、浦上の追悼ミサでの説教です。

カナの婚礼で、命じられたとおり召し使いによって運ばれた「水がめ」の水は、上等なぶどう酒に変えられました（ヨハネ2・1～11）。過越しの食事の場所には、黙って「水がめを運ぶ男」が案内してくれました（マルコ14・13）。そして、川添猛も水がめを運び続けた召し使いでした。その壺には「もう渇くことのない命の水」（ヨハネ4・13～15）がこんこんと湧いていたに違いありません。

公開典礼講座

キリスト教の死生観と葬儀

10月8日(月) 10時30分～15時
カトリックセンター・ホール
講師　石井祥裕（よしひろ）氏
日本カトリック典礼委員会委員
『聖書と典礼』編集長
参加費　500円
近日中に、各教会、修道院にポスターと申込書を送付します。
問合せ　稲佐教会 下山
☎ 095 - 861 - 0747
長崎大司教区典礼委員会

召命の完成のために

植松教会で召命祈願ミサ

7月1日（日）、植松教会で召命祈願ミサが行われた。今回で24回目となるこのミサは、植松教会の主日のミサに合わせて行われ、植松教会の信徒のほか、神学生や志願生、保護者や関係者などが一つになって、それぞれの召命の完成のために熱心な祈りがささげられた。

説教を務めた紙﨑新一師（植松教会主任）は「司祭あるいは修道者の誕生というのは神の奇跡である。奇跡とはたとえ困難や痛みの中にあっても、キリストに近づきたいと願う人の、その思いの丈に応じて実現していく神のわざである。世界は今この奇跡を必要としている。すなわちキリストと同じ思いを胸に、苦しみや困難の中にある人と共にあってキリストを証しする司祭・修道者を必要としている」と語った。

ミサ後には紙﨑師の霊名のお祝いに神学生・志願生たちも招かれ、一緒にお祝いし、多くの人との交流を通してたくさんの激励をいただいた一日となった。

神学生・志願生の紹介②

本紙6月号において長崎教区内にある神学院・志願院の皆さんを紹介しました。今回は教区外にある神学院で学び続けている方々を紹介します。本紙長崎教区報では長崎教区の神学生のみを掲載しますが、召命の道を歩み続けるすべての神学生・志願生のためにどうぞお祈りください。

神学生・志願生の写真と共に、氏名、出身教会、共同体が大切にしていること（＊）を掲載します。

日本カトリック神学院

福岡

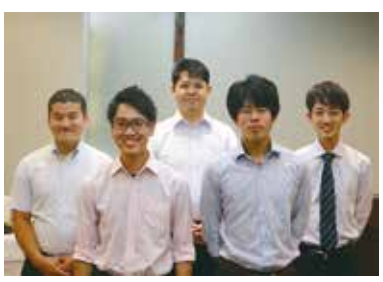
東京

〈東京キャンパス〉
●助祭　宮原大地（桐）
●哲学科1年　ホン・チャンキ（インチョン教区・ソサ）

〈福岡キャンパス〉
●神学科3年　青田憲司（浦上）、稲田祐馬（八幡町）●神学科2年　西田祐尚（まさなり）（飽の浦）、鼈甲屋賢治（宝亀・中野）、ナム・シジン（テグ教区・サンモ）

＊人間的養成・霊的養成・知的養成・宣教司牧的養成という4つの養成の柱を身につけながら過ごしています。

福岡コレジオ



●大学4年　窄口歩（城山）、池田裕輝（植松）●専門学校2年　吉原祐則（福江）●大学1年　森翔真（太田尾）●志願生　廣田学（鹿子前）

＊大神学校への準備と、日々の生活の中で自分を見つめなおすこと。

18年度 第1回臨時司教総会

西日本豪雨被災者へのメッセージも

7月9日(月)～12日(木)、東京・日本カトリック会館で2018年度第1回臨時司教総会が行われた。

審議内容。▼広島教区が、津和野37人のあかし人の列聖調査を開始する許可を、教皇庁列聖省に申請する件が承認された。これにより、浦上四番崩れ（1867年）で明治初期に各地に流配され迫害された信徒らの代表として、これら37人の列聖調査を教皇庁に打診することとなる▼2016年教皇庁聖職者省からの「司祭養成基本綱要」の規定に沿って作成された「日本の司祭養成綱要」案について、総会での意見を反映した加筆修正内容を承認、カトリック司教協議会として制定することとなった▼カトリック司教協議会の次期（2019年度定例司教総会開始時～22年度定例司教総会開始時）会長、副会長にそれぞれ、高見三明（長崎）、菊地功（東京）両大司教が、事務局担当司教に、大塚喜直司教（京都）が選出。同じく次期常任司教委員会の委員には、前述の会長・副会長のほか、前田万葉枢機卿（大阪）と、梅村昌弘（横浜）、松浦悟郎（名古屋）、宮原良治（福岡）、浜口末男（大分）各司教が選ばれた。

そのほか、総会中の「司教勉強会」で今回は「準秘跡の典礼」が取り扱われた。また11日夕方、全司教らは麹町教会で今年列福から10周年を迎える「福者ペトロ岐部司祭と187殉教者」の列聖祈願ミサをささげた。ミサの意向として、日本各地での豪雨によって亡くなられた多くの方々、避難生活を送られている方々、救援活動に尽力されている方々のためにも、祈りがささげられた。

最終日12日には、今回7月に起こった大規模な豪雨被害を受け、司教団名で「西日本豪雨被災者へのメッセージ」（全文は中央協議会ホームページに掲載）を発表した。

世界遺産登録への対応も

教区顧問会

教区顧問会が6月19日(火)大司教館で開催され、2017年度決算案が審議、承認された。詳細については、本紙（3、4面）に掲載されている。

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」世界遺産登録への対応については、3月の顧問会では具体的な計画がなかったが、今回、教区主催の連続講演会を実施することが決定した。また、文化財指定の教会の大規模修繕修復工事の小教区負担分についても審議され、一戸当たり15万円以上を目安に小教区分を算出し、残りは教区が負担することを原則とすると確認した。ただし、小教区の事情はさまざまなので、具体的にはその都度検討することになる。また、今後人口減少や高齢化により、小教区・教区で維持・保全することに困難が伴うことが予想されるため、見学者からも維持保全協力金をいただくことを検討することとなった。

聖フランシスコ病院の移管に関しては、同病院移管協議会が福音宣教のためにカトリック病院を残すべき、という見解を報告した。これを受けて、大司教が8月28日(火)開催の司祭評議会に諮問することとなった。

「わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる」（ヨハネ14・2～3）。

イエスさまは、わたしたちのために場所を用意するとおっしゃいました。その場所は、御父が創造してくださった自分自身が、心から自由を感じ自分が自分らしくいられる場所でしょう。しかも、そこはただの孤独な場所でもありません。誰とも関わらない孤独の状態では、自分が自分らしくいられません。自分が自分らしくあることを喜んでくれる誰かが必要です。そして、その人との繋がりの中にこそ、わたしたちの居場所があります。学校に、家庭に、友人関係に、職場に、教会に自分の居場所があれば幸いです。しかし、居場所がなければとても苦しく、自分なんかいなくてもいいんだと思えてしまいます。

イエスさまは、「真理はあなたたちを自由にする」（ヨハネ8・32）、「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ14・6）とおっしゃいました。ぶどうの木と枝のように、イエスさまはご自分との繋がりの中でこそ人は自由になれる、つまり自分が自分らしくなれることを教えてくださっています。

教会に来る青年が少ない日本ですが、青年にとって教会は自分が自分らしくいられる居場所ではないのかもしれません。「もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる」（ヨハネ8・36）とイエスさまがおっしゃった通り、イエスさまとの繋がりの中で自由を感じ自分らしくいることができれば、人との関係においても自由を感じることができると思います。

イエスさまが場所を用意してくださった天の国の写しとしての教会は、罪の束縛から自由にされた喜びをもって、お互いに裁き合わない、いかなる人にとっても自分らしくいられる居場所、イエスさまの愛の心を中心にした共同体であるよう召されています。主と同じ場所にいるマリアさまに、そのような教会になれますようお願いいたします。

みことばにふれて 150

山口 雅稔 神父

（コンベンツアル聖フランシスコ修道会、本河内教会）

マクセンサ 七種晃嘉（さいくさあきよ）修道女

（純心聖母会）

5月1日、慢性呼吸不全の増悪のため逝去。80歳。佐世保市生まれ。1960年入会、62年初誓願、70年終生誓願。長崎、東京、鹿児島、広島、名古屋で幼児教育に携わり、人々との関わりを通して宣教に励んだ。その後、長崎の高齢者福祉事業所などで病人や弱い人々に寄り添った。昨年からロザリオの聖母修道院で療養。葬儀・告別式は5月3日、本部聖堂で行われた。

フランシスコ・ザビエル 高野利雄神父

（大阪教区）

5月6日、老衰のため逝去。92歳。長崎・黒崎教会出身。1957年6月15日司祭叙階。カナダ留学、豊中、夙川の各教会で助任、泉尾、田辺、関目、三田の各教会で主任を務めた。サバティカル後は姫路地区、大阪南地区、堺ブロックで協力、2016年から仁豊野ヴィラへ。葬儀・告別式は5月8日、大阪カテドラル聖マリア大聖堂で前田万葉大司教の司式により行われた。

使徒ヨハネ 村山安治（やすじ）修道士

（コンベンツアル聖フランシスコ修道会）

5月16日、老衰のため逝去。93歳。西彼杵郡亀岳村生まれ。戦後まもなく受洗。1957年終生誓願。小長井、由布、関町、湯江、本部の各修道院で奉献。聖母の騎士園で活動中、眼の病にかかり、視力を失う。パソコンなどでも人々と関わり、穏やかながら洞察力深い言葉と祈りで人々を支えた。葬儀・告別式は5月18日、本河内教会で行われた。

マリア 大山ツヨ修道女

（お告げのマリア修道会）

5月24日、長崎市の三景台病院で逝去。102歳。1915年長崎市生まれ。大山修道院創立の28年に入会。57年初誓願、62年終生誓願宣立。入会後は木炭の行商、農耕、教会奉仕にいそしみ、修練者の農耕指導も行った。おおらかでたくましく、愛熱に燃える人柄で、美しい歌声で神を賛美した。葬儀・告別式は5月26日、大山教会で行われた。

ラウレンシオ 山本利男さん

（山本一郎師の父）

6月10日、逝去。86歳。世話好きだった故人は、特にかつての信徒使徒職活動に携わり、小教区にとどまらず、下五島地区信徒使徒職の世話係として教会を支えた。息子、娘を司祭・修道者に捧げ、祈りと犠牲を捧げ、何より信仰の継承を願った。葬儀・告別式は6月12日、浦頭教会で高見三明大司教司式のもと、多くの司祭・修道者らが参列して行われた。

お知らせ

〈愛野教会の電話・FAX番号が変わりました〉

TEL 0957-36-7577
FAX 0957-36-7602

短信

〈卯辰山（うたつやま）で殉教祭〉

4月30日(月)金沢市の卯辰山（たつやま）にある長崎キリシタン殉教者碑前で、名古屋教区殉教者顕彰委員会主催による浦上キリシタン殉教祭が行われた。松浦悟郎司教（名古屋教区）が主司式を務めたミサには各地から多くの人が集まり、長崎からの参加者もあった。殉教祭は、昨年まで毎年9月に行われていたが、準備の都合上、今年から春に実施されることになった。

〈第141回クルシリヨ〉

5月3日(木)～5月6日(日)イエズス会立山修道院で、17教会から21人（男性12・女性9）が参加して行われた。参加者は次の通り。浦上1、稲佐1、城山3、さくらの里（滑石）2、出津1、黒崎1、時津1、東長崎1、水主町1、三浦町1、俵町1、浅子1、褥崎2、紐差1、西木場1、鯛之浦1、福江1。

〈水主町教会が「こども食堂」の場所提供〉

5月26日(土)水主町教会信徒会館を会場に「子ども食堂」が開催された。主催した大村子ども食堂実行委員会に、教会が場所を提供して協力。開催した2時間のうちに70人以上が来場し、この日の食堂を閉じた。水主町教会では、今後も必要に応じて協力していく予定。

〈本河内ルルドまつり〉

5月27日(日)10時30分から本河内教会で、水浦征男師（コンベンツアル聖フランシスコ修道会）司式によりミサがささげられた。ミサ後は聖堂とルルドでそれぞれ、聖母の取り次ぎを願ってロザリオの祈りが唱えられた。

〈山内清海師の講演会〉

5月27日(日)14時30分から長崎市立図書館多目的ホールで、ミカエル会主催による山内清海師（長崎教区司祭）講演会が開催された。第4回のテーマは「神の沈黙」。今回も多くの参加者があり、興味深い内容の講演に皆聴き入っていた。

〈パウロ家族協力者会創立100周年の集い〉

パウロ家族協力者会創立100周年が、創立100年を迎えた昨年2017年から今年にかけて祝われ、日本では長崎、大阪、東京でミサなどが行われた。長崎では6月9日(土)浦上教会被爆マリア小聖堂で記念ミサがあり、会員は会の使命と協力の思いを新たにした。

〈青年・長崎北地区長杯バドミントン大会〉

7月8日(日)長崎大司教館体育館で、長崎北地区青年会主催の北地区長杯バドミントン大会が行われ、22人の青年たちが参加し、楽しい交わりの時間を過ごした。

ぶどう園

▼長崎歴史文化博物館特集展示「潜伏キリシタンと明治維新」開催中　9月2日(日)まで。本紙『カトリック教報』8月号を提示すると半額料金（300円）で入館可。

▼原爆殉難者慰霊祭　8月8日(水)19時、長崎市松山町原爆落下中心地。雨天＝カトリックセンター。

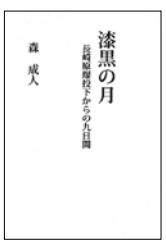
▼平和祈願祭　8月9日(木)18時、浦上教会でミサ。20時、平和公園へたいまつ行列（雨天中止）。

▼聖母平和祈願祭　8月15日(水)13時、アルカスSASEBO。

新刊良書

★漆黒の月――長崎原爆投下からの九日間

著＝森 成人



長崎の被爆2世が、父と叔母の証言を基に描く原爆投下から九日間の、ある家族の軌跡。「テレビが普及して原爆のフィルムが放映されるようになったある夏の夜、父は映像を見ながら『おまえぐらいの男ん子ば助けきれんやったと…可哀想なことばしたばい…』と今まで一言も触れなかった被爆体験を呟くように語った…」（『あとがき』から）。著者は佐世保市で生まれ、高校卒業まで長崎市で育つ。現在、東京のカトリック小岩教会所属。税別1200円。さんこう社。

感謝

―香典返し―

長崎カトリック神学院
●小島カズ子様（中町）故ラウレンシオ
小島直光様
●宮本津公美様（植松）故ペトロ宮本 舜様
●下野利則様（滑石）故ミカエル下野一成様
●山本ヨシ子様（浦頭）故ラウレンシオ
山本利男様
●藤澤ミチ子様（宝亀）故ヨゼフ藤澤兵作様
●諸口公治様（浦上）故マリア諸口サワヨ様
●川原繁樹様（飽の浦）故ミカエル川原忠信様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。